

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800259		
法人名	株式会社エルフ		
事業所名	くつろぎの家エルフ・神陵台		
所在地	神戸市垂水区西脇1丁目4-9-1		
自己評価作成日	平成30年3月13日	評価結果市町村受理日	平成30年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年3月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

オープン当初より散歩を朝夕と推進しているが、入居者の健康と合わせて地域の方々との挨拶や地域のお店での買い物により理解を深めて頂くように心がけている。ユニットごとの入居者同士、職員との相性、適性を考慮している。入居者様が個々の時間を思うがままに過ごして頂けるような支援を心がけている。その時々に応じた時間の過ごし方をさせていただいている。かかりつけ医の訪問診療だけでなく皮膚科、精神科、眼科、整形外科等の受診援助も行っている。家族様との関係性が途切れないようこまめに連絡をさせていただき近況報告や相談をさせていただいている。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人ひとりの生活のペースを尊重し、思いやしいこと等を受け留め実践につなげている。利用者の主体性を尊重することは、高齢者の価値を下げないことにも通じることを、職員は理念から学び利用者とのふれあいからも実感している。朝夕の散歩の継続や利用者が大好きなカラオケと一緒に楽しむことで、職員と利用者とのコミュニケーションだけでなく、つながりも深まっている。近年、重度化が進んできているが、看護師による日常的な健康管理の体制により状態変化時には速やかな対応が可能で、入院回避という効果も得られている。利用者にとって自宅ではないが、居心地の良い安心できる居場所として、家族にとっても大きな安心とやすらぎを得ることができている。管理者は、まだまだ職員の意識向上を期待しており、さらなるレベルアップのための研鑽を、今後も続けていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社の理念掲示している。内容を要約し短文での掲示も行っている。また、入社時の説明は必須として行い随時職員への周知を行っている。	高齢者である利用者を人生の先輩として接することを、職員は普段の関わりを通じて実践に努めている。普段の生活の中で自分のしたいことができる生活を普通の生活と捉え、その人にとっての普通の生活に近づけるよう支援することを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣スーパーへや大型施設での買い物同行を支援している。喫茶店の利用や散髪など個別支援を行っている。連休などで帰省されている近隣の方などに、駐車場を貸している。	日課である朝夕の散歩で挨拶をすることが増えてきている。小学校の運動会を見に行ったり、移動パン屋さんが来た時近隣の人も買いに来たり、併設の地域包括での相談を通じて徐々にふれあいの機会ができてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に加入しグループホームの周知とともに地域の一員であることを目指している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催している。サービス利用状況や活動報告を行い、困難ケースでの検討や求人の情報共有を行ったりしている。	事業所からは、行事や事故報告、事例検討等、利用者の状況とともに法人の運営に関すること等、報告が主である。参加メンバー個々の立場から情報提供があり、参考にしている。地域包括からは、地域のふれあいカフェの案内があり、検討している。	参加者等の関心のあるテーマに絞ってみるなど、内容を工夫してみてはいかがか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の利用者様が多いこともあり垂水区保護課とは常に密接に連絡を取っている。家族様へのアプローチについても常に相談しながら進めている。	利用者個々の状況報告等、市担当者とは常に情報交換を図っている。必要に応じて相談するなど、連携、協力の必要性を認識している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前行方不明になられる方がでたりしたので玄関施錠は維持している。可能な限り毎日の散歩や敷地内での出入りを推進している。	職員は、具体事例を通して学び周知に努めている。安全上、昼間、玄関は施錠しているが、職員は、日課となっている散歩や利用者の行動を見守りながら、一緒に外にできるようにしている。	昼間、利用者の状態を見ながら少しの時間からでも開錠できないか、今後も検討していただきたい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	所内研修で必須項目として研修を実施している。職員の無自覚よる言葉の暴力の可能性について日常的に職員同士で確認しあう事を申し合わせしている。	上記同様、職員は、定期的な研修にて学んでいる。DVDでの事例を通して振りかえり、職員の気づきを促している。スピーチロックをはじめとする言葉遣いについては、昼間だけでなく夜勤時においても職員間で注意し合うよう努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修や説明を行っている。	現在、成年後見制度を活用している人がおり、身近な事例となっている。職員は伝達研修を通じて共有を図り、理解に努めている。管理者は、必要に応じて家族等に情報提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に丁寧に時間をかけて説明し理解・納得していただいている。	事業所の方針と併せ、費用に関することや緊急時の対応や医療面に関すること、生活の様子についてなど、家族の質問を受けながら丁寧に説明している。家族の来訪を働きかけるなど協力をお願いしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加をよびかけている。家族会では個別の意見をいただき職員への周知を図り計画作成にも反映している。	夏と冬の年2回、家族会を開催している。夏まつりや餅つきなど行事の前に開催している。家族からは、職員の名前がわからない、利用者のリハビリの希望などがあがった。玄関に職員の写真と名前を掲示したり、利用者個別に生活リハビリを盛り込むなど、反映した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期カンファレンスの開催により討議できている。議事録は回覧周知させており日々のケアに反映させている。	申し送り時や会議等で、職員からの意見や提案を促している。活発な意見交換とはいえ、個々に働きかけ意向を聞いている。運営に関することはなく、利用者個々のケア方法について話し合っている。	会議前に事前にアンケートを取ってみるなど、意見等の収集について工夫されてはいかかが。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の都合を優先・考慮した勤務体制を心がけている。残業は無いよう指導実践している。有給取得職員の希望は可能な限り聞いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を希望する職員については勤務体制を考慮している。受講料負担等バックアップしている。初任者研修、実務者研修、認知症実践者研修、介護福祉士、介護支援専門員の資格取得のための受講を推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等への参加の機会はなかなかない。相互訪問の機会も現状では行っていない。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	詳細については可能な限り聞き取る努力をしている。家族様からの聞き取りも併せ事前情報として職員への周知を行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様とのお話はじっくりと聞かせていただき、連絡もこまめにさせていただいている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初は詳細に記録をとりさまざまな角度から情報収集を行っている。職員間での情報共有により随時対応できている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人がおできになることは極力御自身でしていただけるよう働きかけている。職員は常に感謝の気持ちを言葉にして伝えるように心がけている。利用者様に教えていただき学ぶという姿勢で臨んでいる。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院支援・外出支援に際し家族様の協力を得られるよう働きかけている。施設内行事・運営推進会議への参加も促している。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来客のご友人にはいつでも来ていただける様に気をかけるように指導している。電話をかけるお手伝いをしている。	家族だけでなく近所の人や元職場の同僚、知人等、訪問時は気軽に話ができるよう声をかけたり、ゆっくり話ができるよう配慮に努めている。友人と外食に出かけるために、車いすを貸し出すこともある。お正月を自宅で家族と過ごす人もいる。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性が良好に保てるよう配席には配慮している。個別でお話を聞かせていただき互いの理解が深まるよう橋渡しをするなど心がけている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要案件が発生すれば必要な助言・相談を行い支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人と向き合いお話しするよう努めている。ご本人の希望をお聞きしその思いが叶うように心がけている。	利用者のこれまでの生活歴をもとに、利用者との普段の会話から出た想いを参考に、把握に努めている。利用の好きなことや得意なこと、興味のあることなどを反映させている。家族からも情報を得て活かしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取りを元に、日頃の会話の中で得られた情報を職員に周知し、記録等でも情報共有ができるよう努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの低下防止を念頭に置きここに必要なサービスを提供している。できられることは積極的に実行していただけるよう配慮している。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者を軸とし職員間での意見交換を行っている。日頃のきずきを担当者会議やカンファレンスを介して共有しケアプランに反映できている。	ケアマネが、3か月毎にモニタリングをし、基本半年毎に介護計画を見直している。利用者の好きなことや出来ることなどの想いを掲げ、利用者の現状に即した計画を作成している。更新時には、家族を交えて担当者会議を開催し、意向を反映している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート・介護記録日誌・連絡ノート・カンファレンス・議事録等により情報を共有できており介護計画に反映できている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事・外出等個々の好みや希望にあわせた対応が行えている。		

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問がある。音楽等の鑑賞や参加することで楽しんでいる。又、訪問理・美容の利用も随時されている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を定期受診されている。又、個人のご希望や状況に応じ通院支援もおこなっている。	ほとんどが、協力医療機関の定期往診を利用している。他科受診時は家族が支援するが、職員が同行、支援することもある。家族とは常に利用者の状態確認を行い、共有を図っている。緊急時は、看護師との連携のもと、速やかな対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニットごとに看護師を配置し細かい情報伝達を行っている。不在時は連絡ノートにより日常の詳細を把握し伝達出来ている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は小まめに訪問し病棟看護師と話す機会を捉え情報収集に努めている。病院関係者(SW)との連絡は密にとっている。	今年度は、入院はなかった。普段の健康管理に努め早めの受診により、入院を減らすことができている。入院時は、職員が病院を見舞い利用者が安心して治療に専念できるよう声かけしている。利用者、家族の意向にそい、早期退院に向けた事業所での受け入れ体制を整備している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族の意思確認を行い相互に理解はできている。これからも随時話し合いをしていく。	現在のところ、終末期における体制はまだ未整備である。今後、職員の研修及び体制整備の状況を踏まえ検討していく考えである。利用者、家族の意向をできるだけ尊重し、事業所としてできることを支援していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制等、日頃より話し合い確認している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害避難場所を張り出している。日頃の会話の中でも場所の確認を行っている。	夜間想定による訓練は、まだ行えておらず、次回を予定している。訓練時は、利用者も一緒に避難経路を確認しながら実践に即した訓練を行っている。地域との協力体制が今後の課題となっている。	実際の避難訓練に運営推進会議のメンバーに参加してもらい、現状を見てもらってはいかがが。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室内での介助であっても必ず「させていた だいている」という心で接するよう指導してい ている。	職員には、接遇研修にて高齢者への人権の尊 重、マナー等の理解を図っている。個々の利用者 の特性を深く理解し、利用者の主体性を大事にす るよう心がけている。管理者は、普段から職員に 注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	自己決定が可能であるよう声かけを行い、 選んでいただけるようにしている。何事にか かわらずご本人の意思を確認した上で支援 している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の得意分野や趣味を把握す ることのできることを、したいことをしな がらうごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	お化粧や身だしなみについてはさりげなくア ドバイスさせていただいている。衣類の汚れ や乱れについては随時注意し清潔に過ご して頂いている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	音楽を聴きながら、ゆったりとした中食事を 楽しんで頂いている。食事前の準備などで 一緒にできることはお願いしている。	主に調理担当の職員が、食事の準備や後片付 け等を行っている。利用者はテーブルを拭いたり、 食事が終わった後のおぼんをふいたりしている。 手作りおやつを職員と一緒に楽しむこともあり、会 話が弾む。誕生日にはケーキを作ったり、おやつ を持って公園に行くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	水分摂取量が十分であるよう声掛けや支援 をしている。食事摂取については記録をと っており不足時には高栄養飲料の提供をして いる。体重測定は毎月施行。記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後の口腔ケアは個々に適した方法で各 自治に実施している。		

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを考えトイレ誘導等支援を行っている。	個々の排泄習慣を参考に利用者の表情や行動から察知し、さりげなくトイレに誘導している。失禁を防ぐために、早めにタイミングをみて声かけするなど、個々に応じて声かけを工夫している。夜間は、その人の希望に応じた適切な排泄方法を選択している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージを行ったりヨーグルト、乳酸飲料をすすめるなど積極的に行っている。排泄記録をとり医師や看護師相談し緩下剤等での調整を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週間での予定はあるがご希望に応じ随時対応している。	週2回を目安に職員が声かけし、お誘いしている。拒否の強い人には、職員が代わったり時間をずらして誘い、無理強いはしないようにしている。長湯を楽しんだり、歌を歌ったり、職員とおしゃべりを楽しむなど、個々にくつろいでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望に沿い照明・室温には細やかに配慮している。寝具・暖房器具等についても細かく調整できている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排泄状況等は細かく記録しており医師・看護師への連絡・相談により連携をとり服薬調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みのものが提供できている。レクリエーションでは卓球・百人一首・トランプ・カルタ・将棋等で気分転換をしていただいている。又、ボランティアの訪問時は音楽を楽しませている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ショッピングや食事などの機会を設けている。季節ごとの外出行事や外出の日を実施している。	朝夕の散歩をできるだけ実践している。利用者からの希望で、日用品を買いに行ったり、外食をすることもある。季節毎に花を観に行ったり、希望に応じて職員が企画し支援している。家族と外食や外出する人もおり、協力を得ている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望に沿って使えるよう支援している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由にかけられるので支援をしている。お手紙の投函のお手伝いもさせて頂いている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を置き、座って会話もできるようベンチも置いている。トイレ等は不快臭が無いよう掃除等を小まめに行っている。照明や空調についても小まめに調整している。	併設の2つのユニットを開放してイベントを開催することもあり、各リビングは天井も高く開放感がある。利用者はソファでテレビを観たり、思い思いの場所でくつろいでいる。カラオケセットが用意され、利用者は毎日のように楽しんでいる。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファを配置しており各々が自由に居場所を求め思い思いに過ごされている。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様の了解を得た上での模様がえや整理整頓を行っている。その都度ご本人と一緒にさせて頂いている。居室で居心地良く過ごせるようお家からなじみのものをもって来ていただけるよう伝えている。	小型の収納庫が用意されている。これまで使っていた整理筆筒や椅子や小物等を、もの周りに置いている。昔のアルバムや日記、手作りの趣味の小物等を飾られ、その人の暮らしぶりがうかがわれる。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人がそれぞれに思い思いの時間を過ごされている。考え込まれている時や表情の硬いときなどはさり気ない声かけでお話させて頂き、考えておられることをお聞きするよう努めている。		